



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)
揃い出したエゼキエル戦争の条件
ロシアとイランの結びつき

2024/02/03

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日も、お話しの前に講演会の通知をします。3月3日（日）埼玉県の熊谷キリスト集会で、『2024年の国際情勢を聖書預言で読む～終末時代の前兆とは～』と題して講演します。入場無料ですが、熊谷キリスト集会のホームページで事前申し込みが必要です。熊谷キリスト教会ではありません。熊谷キリスト集会です。ぜひお越しください。当日、会場で皆様とお目にかかるのを楽しみにしています。

さて、『今のイスラエル中東情勢とこれからの国際情勢』ということで、今日は、ロシアのことも踏まえながらお話しします。



この地図は、イスラエルが今戦っている相手です。イスラエルは今、7方面と同時に戦ってるんですね。①まず、ガザにいるハマス。地上戦やっています。

②同時に、ヨルダン川西岸地区にもハマスと、ハマスによく似たイスラム原理主義過激派のテロ集団がいます。

彼らのテロを討伐するためにヨルダン川西岸に向いていたタイミングで、10月7日のあのテロが起こったのです。

この2つと戦いながら同時に、③イスラエルの北のレバノンには、イランのシーア派の流れを汲むテロ集団ヒズボラがいます。ヒズボラには最大戦闘員が10万人いるんですよ。ハマスの3倍以上。ハマスよりもっと洗練されて、もっと強力なミサイルを持っているレバノンのヒズボラが今、イスラエル国境に詰めてるんですね。

④シリアには、イランがつくったカタイブ・ヒズボラという民兵団体。

⑤イラクにも人民動員隊というグループがいて、これまたイランのシーア派。イラクにイスラム国が跋扈（ばっこ）していた時、イラク政府軍は全く太刀打ちできなかつたんですが、人民動員隊がイスラム国と互角に戦ったと言われている、戦闘能力が半端ない民兵組織です。

⑥南にはイエメンのフーシ派。これが紅海を行く船舶、特にイスラエルと関係する船舶をミサイル攻撃やハイジャックして、世界貿易を人質に取っているんです。フーシ派も、イランのシーア派の革命政府が養成したグループです。

今6つ言いましたが、その親玉がピンク色のイランなんですよ。これが黒幕です。

いわば、この6つはイランというタコの足です。
足をなんぼ叩いてもね、頭叩かないと終わらないんですよ。

今イスラエルは、イランを含めて7方面と戦っているんですね。
このイランの背後にいるのがロシアなんです。
ロシアとイランは今までも結びついていましたが、特にウクライナ戦争以降、ロシアとイランは互いになくってはならない国になったんです。

そして、この2か国だけではなく、プラス中国と北朝鮮が入って、4つの悪の枢軸
というか、独裁国家四天王ともいうべきグループを作っているんです。

今イスラエルが戦っているテロ組織の背後にはイランがいる。イランと組んでいるのは特にロシア。ほかに中国と北朝鮮がいる。これを頭に入れておいてください。

聖書預言によると、終末時代にはロシアとイランが密接な関係になり、ロシアはイランやトルコを引き連れて、再建されたイスラエルに攻め込むんですね。
「恐るべき大軍がイスラエルに押し寄せる」と聖書預言に書いてあるんです。

なぜ、ロシアとイランが密接に結びつくのでしょうか。
その話をする前に、一番大きな動機はウクライナ戦争なんです。皆さん、ウクライナ戦争っていつ始まりましたか。
ウクライナのキーウに軍隊を投入したこの戦争は、この2月でちょうど丸2年と言われているし、私も言ったことがあるんですが、正確には、第二次ウクライナ戦争が始まって2年なんです。

実は、ロシアがウクライナに攻め込んだのは、今からちょうど10年前の2014年。
ロシアがクリミア半島をあっという間に取ってしまったんですね。
あのクリミア戦争が、ウクライナに対する戦争行為・攻撃の第一発目なんです。
ですから、あのクリミア戦争から数えると、もう10年戦ってるんですよ。

クリミア戦争は、いったいどんな戦争だったのか。
ハイブリッド戦争と言われてるんです。普通の武器・弾薬を打ち込んでいくという戦いではなく、ありとあらゆる手段を使って、ハッキリ言って、いつ始まったのか分からないうちに、あっという間に負けていたという戦争。
これがハイブリッド戦争です。

クリミア戦争の当日に何があったのか。
わけの分からない集団が、クリミアの港湾施設、発電所、鉄道のターミナル駅などでデモをやったんですね。何のデモなのか、この人たちはいったい何なのか、警察が行って調べるのですが、どう見ても兵隊・軍隊には見えない。
それで、そっとしておいたんですが、そうこうしているうちに、なんとウクライナの携帯電話が、特にクリミアで全く通じなくなったんです。
携帯電話が通じなくなると、当然大混乱しますよね。

そして、通じないだけでなく、偽の SNS 情報が携帯にどんどん入って来る。

「いったい何が起ってるんだ？」といぶかっていると、今度は、主要都市で大規模停電が始まった。みんな大混乱して、情報欲しくて、テレビ見ようと思っても使えない。ラジオつけたけど、これがまた、おかしなヘンテコリンなニュースを流すんですね。それで、ウクライナの軍隊がドローンを飛ばして偵察しようとしたんですが、途中でぽたぽた地面に落ちるんですよ。

これはもう、ロシアの仕業に違いない。

それで、ロシア国境には既に軍隊が出張（でば）っていたので、ウクライナは小さな衝突ということで砲弾を打ち込んだのですが、それら全部が不発弾だったんです。これがハイブリッド戦争です。

あのデモをしていた人たちは、私服を脱いだら、その下は軍服だったんです。

ロシアの民兵ですよ。

ロシアはサイバー攻撃で、クリミアの携帯電話の中継基地を全部麻痺させ、電源装置のターミナルをオフに切り替えたんです。それで停電になりました。

そして、みんなラジオを聞かろうということまで予測して、偽のラジオ局まで事前につくり、不安を煽るような偽情報をうわっと流したんです。

強力な妨害電波をクリミア半島の上空に出したので、宇宙からの情報が完全遮断されて GPS が使えない。ドローンは GPS の指令で動くのですが、目的地が分からなくなると、自動的に落ちるように設計されてるんです。

更に、ウクライナ軍が撃った砲弾の信管も、電磁波によって全部作動しないようにしていた。つまり、何が何だか、わけ分からないような状態。

そうして、ロシア側は一人の犠牲者も出すことなく、数時間でクリミアを陥落させることができた。あまりにもあっけなくクリミアが手に入った。あまりにも簡単にクリミアを落とすことができた。これでプーチンが味を占めたんですね。

だから、「同じことをやったらええわ。次、キーウ簡単に落とせるわ。」

ウクライナは、「ロシアはクリミアで終わらない。やがて、ウクライナ本土に大きく乗り出してくるに違いない」ということで、この戦争が終わった直後から、西側の、特にアメリカの援助を受けながら、ハイブリッド戦争への対策を練りに練ってたんです。だから、2年前の戦争ではハイブリッド戦争がうまくいかなかった。

2年続いて、いまだに決着がつかない状態になっています。長期戦ですね。

ロシアは、今は長期戦を目論んでいます。

戦争というのは長引けば長引くほど、体力がある方が勝つんです。

ロシアは世界最大の領土に、世界最大の小麦生産地、世界第2の天然ガス産出地、世界第3の石油輸出ですよ。つまり、食糧とエネルギーを自給自足できる国なんですよ。長期戦にもって行ったら、体力がある方が勝つんです。

ウクライナはロシアと戦って頑張ってるんです。よう戦ってると思いますよ。

だけど、ウクライナの軍事兵器は全部、西側からの支援で成り立ってるんですよ。戦争というのは、長引けば長引くほど、支援している国々に支援疲れが出て来ます。「もうほどほどのところで、やめたほうがええんちゃうか」という声が出て来ますよね。すでにアメリカの共和党は、そう言っているじゃないですか。これがロシアの目論見なんです。

しかし、長期戦になればなるほど、ロシアも砲弾が足りなくなってきた。この不足している砲弾を全面的に支給している国、それがイランなんです。ロシアは、イランの協力なしでは戦うことができなくなってます。

ウクライナ戦争が長期化すればするほど、ロシアとイランの関係は密接に結びつく。最近ではイランの支援だけでは足りなくなったので、中国と北朝鮮を抱き込んでいる。つまり、ロシアはイラン・中国・北朝鮮の3つを抱き込んで、長期戦を考えて戦っているというのが、今のウクライナ戦争の実相なんです。

実は聖書の**エゼキエル書**に、こんなことばがあるんですね。エゼキエル書は2600年前に書かれた聖書預言です。終末時代、すなわち7年間の艱難時代が始まる前に必ず、全世界が注目する戦争が起こる。それはエゼキエル戦争とも呼ばれています。

「その戦争は、ロシアが再建された国イスラエルに攻め込んで来るが単独ではない。いくつかの同盟国を率いてイスラエルに入って来る」という預言です。同盟国の筆頭に挙げられているのがイランなんですね。

エゼキエル書 38 章

2 人の子よ。メシエクとトバルの大首長である、マゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。

マゴグが現在のロシアです。1世紀のユダヤの歴史家ヨセフスによると、「マゴグは今のカスピ海と黒海の間から北の地方のことだ」と言ってるんですね。カスピ海と黒海の間（カフカース地方）から上は、全部ロシアですよ。なので、マゴグはロシアです。

マゴグ（ロシア）はやがてイスラエルに入るのですが、その時に引き連れて来る同盟国が**5 節**にリストアップされています。

5 ペルシアとクシュとプテも彼らとともにいて、みな盾を持ち、かぶとを着けている。

筆頭に出て来るペルシアがイランです。

イランはペルシア民族。イランの言語はペルシア語。

「ロシアはイランと一緒に入って来る。ロシアとイランは密接な関係で、軍事同盟的な結びつきの中で、イスラエルに攻め込んで来る」と言ってるんです。

今イランは代理戦争で、自分の6本の足を使ってイスラエルに攻め込んでいます。

そして、イランの代理戦争でハマスがイスラエルを攻撃している時、ロシアは喜んだんですね。あのテロのおかげで、世界中の注目が、ウクライナからガザに向いたからです。それまでは、「ロシアはウクライナにこんなむごたらしいことやってる！ ブチャの大虐殺をやった！ こんなにえげつないことやってるんだ！」と、ロシアに目が向いていました。

今や世界の注目は、イスラエルに向いているじゃないですか。

ロシアはガザがやっていること、ガザ寄りの立場を明確に取っています。

そして、ロシアは国連安全保障理事会 常任理事国なので、イランがこれからイスラエルに何をしようが、国連安保理は国際法を動かします。

ロシアがイランのために拒否権を使うからですよ。

ロシアが持っている国際政治力とイランが持っている大量の武器・弾薬が、互いに窮地に立っているロシアとイランを固く結び付けていってるんですね。

そういう状況の中で、イスラエルに入ります。

8a 多くの日が過ぎて、おまえは徴集され、多くの年月の後、おまえは、一つの国に侵入する。

皆さん、歴史って何ですか。多くの年月の積み重ねなんです。

多くの年月の後、歴史の積み重ねの後、すなわち終末時代。

エゼキエル書 38 章は終末の預言です。艱難時代が近い、艱難時代が始まる時の預言なんです。

8b そこは剣から立ち直り、多くの国々の民の中から、久しく廃墟であったイスラエルの山々に集められた者たちの国である。

世界中から集まって来たユダヤ人たちが、イスラエルという地に、イスラエルという名前の国を再建し、旧約聖書時代のユダヤ人たち、そして約 2000 年前のユダヤ人たちが話していたヘブライ語を復活させて、現在のイスラエル共和国があるんですね。

そこに今イランはすでに、代理戦争で兵隊を送り込んでるんです。

代理になるようなテロ組織に戦争をさせてるんですが、それがいよいよ本格的になるのがエゼキエル戦争なんですね。

今イスラエルは、イスラム原理主義と戦ってるんです。

ハマスの背後にはイランがいる。イランの背後にはロシアがいる。

ロシアが今手を繋いでいるのは中国と北朝鮮。これはつまり、どういうことですか。

ロシア・中国・北朝鮮は、日本のすぐ隣にある独裁国家で、核を持っている国で、しょっちゅう日本を脅しに掛かって来る国じゃないんですか。

この3つの、日本にとっての潜在敵国と強力な結びつきにあるのがイラン。

イランの代理戦争をやっているのがハマス。

ハマスと戦ってくれているのがイスラエル。

今ハマス側に立って、お先棒を担ぐような発言をしている人は、地政学的にそれがどんな意味を持つのか考えてほしいんですよ。

ハマス側に立ったり、ハマスもイスラエルもどっちもどっちということで、結果としてハマスの肩を持つことは、回り回ってイランに協力することであり、回り回ってロシア・中国・北朝鮮にプラスになることに加担することじゃないですか。日本の国益にそぐわないんですよ。その観点からも、イスラム原理主義がこれ以上広がらないようにするためです。

これを放っておくと、日本にイスラム原理主義のグループが拠点を持つ可能性は、十分あり得ると思いますよ。そうならないためにも、今日本は目を見開いてこの現実をよく見て、「テロに対して断固反対！」という立場を、口先だけでなく行動で示すことが必要だと思います。

今日は「国際情勢を読む」、さわりの部分をお話ししました。より詳しい内容については「天満橋バイブル倶楽部」、および「2024年の国際情勢を聖書預言で読む」というシリーズを全国各地で講演していきます。3月3日は熊谷です。よろしければ、どうぞお越しください。

チャンネル登録といいねボタンもお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

.. 00.. 0.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00..

*引用；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社，2017